

令和3年4月

普及活動報告



草丈80cm程度、開花始め



生産者と活発な意見交換

実えんどう巡回を実施 ～晩霜対策と追肥施用を呼び掛け～

(京丹波町：12日)

京丹波町では毎年実えんどう栽培者を対象に研修会を行っていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症対策のためJAと普及センターで各農家の栽培ほ場を巡回し、生育状況の確認と今後の作業について指導しました。

昨年は暖冬で生育が早まりましたが、今年は例年どおりで、普及センターからは5月まで晩霜対策として夜間に不織布を掛けること、わき芽を数本残しておくことを伝えるとともに適切な追肥施用の実施を呼び掛けました。

生産者から「他農家の実えんどうの生育状況はどうか」「病虫害防除の時期はいつ頃がいいか」などの質問があり、他ほ場の草丈についての情報共有や、アブラムシ類やハモグリバエ類の発生状況を説明しました。

場 所 京丹波町瑞穂地区

出席者数 10名

令和3年度京丹波町実えんどう農家：6戸

京都府南丹農業改良普及センター

令和3年4月

普及活動報告

担い手養成実践農場開始式を開催 ～えびいもなど露地野菜栽培に挑戦～

(南丹市：21日)



設置認定通知書を手交

南丹市八木町山室地区に実践農場が設置され、開始式が行われました。

普及センター所長が研修者に実践農場設置承認通知書を手交し、研修者は「ブランド産品等京野菜づくりに憧れて就農を決意した。地域の人々のサポートを得ながら、自立経営できるように頑張りたい」と力強く決意表明されました。

参加者からは「山室地区、南丹市の農業の担い手として頑張りたい」と

「技術と経営感覚をしっかりと身につけて欲しい」「地域とのつながりを大切に」など激励の言葉が贈られました。

普及センターは充実した研修ができるよう継続して支援していきます。

場 所 園部総合庁舎

出席者数 8名

令和3年4月

普及活動報告

飼料イネ「夢あおば」とソバ二毛作の実証がスタート

(京丹波町：30日)



今年度から始まった「京都丹波そばの里魅力発信事業」の一環として、WCS用イネとそばの二毛作を実証し、耕畜連携を促進する取組みが進められています。そのスタートとして飼料用イネ「夢あおば」の田植えが行われました。

栽培農家からは「二毛作成功のため、遅れずに作業していきたい」との声が聞かれました。

普及センターは今後、生育状況等に応じた助言をしていきます。

場 所 京丹波町実勢

出席者数 11名

田植えはGPS装着直進アシスト機能付きの田植機で行われました

実証ほ場面積：35.5a

京都府南丹農業改良普及センター